

全国大学ビブリオバトル 2023

～首都決戦～

実施報告書

全国大学ビブリオバトル予選事務局

目次

全国大学ビブリオバトルレギュレーション	1
1 開催概要	2
1-1 本戦 開催概要	2
1-2 ブロック決戦 開催概要.....	2
1-3 ブロック予選 開催概要.....	5
1-4 オンライン開催の要件	7
1-5 ブロック予選・ブロック決戦 開催団体一覧.....	8
2 ブロック予選・ブロック決戦 開催報告	14
2-1 ブロック予選報告	16
2-2 ブロック決戦報告	24
3 本戦 開催報告	29
3-1 セミファイナル.....	30
3-2 ファイナル.....	33
4 「全国大学ビブリオバトル 2023～首都決戦～」本戦レポート	34
5 その他	44
5-1 予選会開催方法	44
5-2 予選団体アンケート結果.....	44
5-3 セミファイナルの実施方法	45
5-4 ブロック予選・ブロック決戦主催団体 広報ウェブサイト	45
6 記録	46
6-1 ちらし・ポスター素材	46
6-2 メディア掲載（一部）	47
一般社団法人ビブリオバトル協会のご案内	48
ビブリオバトル普及委員会のご案内	49

全国大学ビブリオバトルレギュレーション

前文：

ブロック予選、ブロック決戦、本戦すべてのビブリオバトル開始前に、司会者がビブリオバトル公式ルールおよび以下の全国大学ビブリオバトルレギュレーション（1～10）を読み上げ、ビブリオバトルの趣旨を参加者に周知してください。

1. 本やエピソードを紹介するための小道具の使用は認める。
2. レジユメの配布は禁止とする。
3. 読み上げレジユメの持ち込みは禁止とする。ただし、本へのメモ書きや付箋の添付などは認める。
4. パワーポイントやキーノートなどの、プレゼンテーションツールの使用は禁止とする。
5. 発表の際、発表参加者は必ず5分間を使い切ること。
6. ディスカッションの時間では、発表内容の揚げ足を取ったり、批判的な問いかけをしてはならない。発表内容で分からなかった点の追加説明を求めたり、「どの本が一番読みたくなったか？」の判断に必要な質問を心がけること。
7. 投票の基準は、「どの本が一番読みたくなったか？」であり、知り合いや身内の応援といった理由で投票を行わないこと。
8. 投票権は、すべての発表を聞いた参加者にのみ与えられる。
9. 司会者は10の場合を除き、投票には参加しない。
10. チャンプ本が複数となった場合は、決選投票を行う。その際、司会者1名の票を1/2票として加える。

1 開催概要

1-1 本戦 開催概要

名称：第 14 回全国大学ビブリオバトル～首都決戦～（全国大学ビブリオバトル 2023 本戦）

開催日時：2023 年 12 月 17 日（日）

開催場所：昭和女子大学（東京都世田谷区太子堂 1-7-57）

主催：活字文化推進会議

共催：一般社団法人ビブリオバトル協会、ビブリオバトル普及委員会

主管：読売新聞社

公式ウェブサイト：<https://zenkoku.bibliobattle.jp/>

公式ツイッターアカウント：[@bibliozenkoku](https://twitter.com/bibliozenkoku)

主催者ウェブサイト：<https://katsuji.yomiuri.co.jp/archives/category/college/>

1-2 ブロック決戦 開催概要

ブロック決戦は「全国大学ビブリオバトル 2023 本戦」に進む出場者を決めるビブリオバトルのイベントである。ブロック決戦主催団体は「全国大学ビブリオバトル 2023〇〇ブロック決戦」のクレジットの下で、ブロック決戦を開催する。

開催日時：原則 2023 年 10 月 14 日～11 月 23 日の期間でブロック決戦主催団体の定める日

主催：各ブロック決戦主催団体・個人

後援：活字文化推進会議、一般社団法人ビブリオバトル協会、ビブリオバトル普及委員会、他（後援、協賛等を各団体で獲得することは自由とする）

開催ブロック：

- ・ ブロック決戦主催団体応募状況に応じ、ブロック割りを全国大学ビブリオバトル予選事務局が決定する。
- ・ 最大で 36 ブロックを上限とする。
- ・ 一つのブロックの境界は都道府県境を一つの基準とするが、必ずしも他県からの参加を拒むものではなく、また、複数県で一つの地区をつくる場合もある。

出場資格：各地で開催されるブロック予選を勝ち抜いた者

<ブロック決戦主催団体の役割>

① 本選出場者の決定

「全国大学ビブリオバトル 2023」ブロック決戦の運営を行い、ブロック代表を決定すること。全国大学ビブリオバトル予選事務局の示すブロック決戦開催要項を十分尊重しながら、ブロックの状況を踏まえ、ビブリオバトルの普及に役立つ形での運営を心がける。

ブロック決戦の開催については、ビブリオバトル公式ルール、ならびに全国大学ビブリオバトルレギュレーションを遵守して行うこと。

② **ブロック内のブロック予選主催者との連携**

全国大学ビブリオバトル予選事務局の窓口として、ブロック内で開催されるブロック予選主催者と連携し、出場者への通知などの対応を行う。また、ブロック内で開催された各ブロック予選情報を把握する。ブロック予選主催団体は予選結果のフォームに入力・送信するとともに、メールにてブロック決戦主催団体にその旨を報告することとなっている。なお、予選結果の確認フォームの URL は、全国大学ビブリオバトル予選事務局よりブロック決戦主催団体に事前にメールで周知される。

③ **予選事務局との連携**

ブロック内の状況を逐次、予選事務局に報告する。また、ブロック決戦終了後は速やかにブロック決戦の結果を全国大学ビブリオバトル予選事務局に報告する。原則、ブロック決戦出場者への交通費補助については、ブロック予選主催団体が確認する。

<ブロック決戦主催団体 募集期間>

2023 年（第 1 次締切）7 月 2 日（日）、（第 2 次締切）7 月 30 日（日）

<ブロック決戦 開催要項>

1. ブロック決戦主催者は期間内（原則：10 月 14 日～11 月 23 日）にブロック決戦を開催し、その結果について下記の内容をすみやかに予選事務局に報告する。

① 主催情報

メールアドレス、ブロック、主催団体名、ご担当者名

② ブロック決戦情報

ブロック決戦開催日、開催方法、ブロック決戦会場、ブロック決戦開催形式、ブロック決戦の階層数、ブロック決戦発表参加者数、発表参加者を除くブロック決戦参加者数

③ ブロック決戦チャンプ本獲得者情報

チャンプ本（書誌名、著者名、出版社名）、チャンプ本獲得者氏名、所属大学名・学部・学年、メールアドレス、連絡先電話番号、得票数

④ 得票数が次点、3 番手の発表参加者情報

紹介本、氏名、所属大学名、得票数

⑤ チャンプ本、得票数次点、3 番手以外の発表本情報

最終的に本戦出場者 1 名を決定したビブリオバトル（1 ゲーム）で発表された書籍名・著者名

ブロック決戦をオフライン開催にするかオンライン開催にするかは問いません。

*ハイブリッドの開催も認める。

オフライン開催：原則参加者が実在する会場に集まり、対面環境で行う開催

オンライン開催：原則参加者が Zoom、Google Meet、Teams 等を用いて、インターネット上の会場に集って行う開催

* オンライン開催の場合、オンライン開催の要件も遵守すること。

2. ブロック決戦進出者を決めるブロック予選が地区内で 3 回以上開催されること。開催規定はブロック予選開催要項にしたがう。この開催はブロック決戦と同日開催でも構わない。
3. 担当するブロックでのブロック予選開催者と連絡をとりあい、ブロック決戦に支障のない運営に取り組むこと。ブロック決戦に関わる出場者への通知など、担当するブロック内で開催されるブロック予選開催者との連携も含まれる。また、ブロック決戦の開催情報を事前に全国大学ビブリオバトル予選事務局に報告すること。
4. 担当するブロックで他の団体がブロック予選を開催することを奨励し、ブロック決戦が盛り上がるように心がける。
5. 担当するブロックのすべてのブロック予選でのチャンプ本獲得者を、ブロック決戦の参加者として受け入れること。発表参加者が多数になった場合、ブロック決戦のなかで準決勝→決勝のように階層を分けることは可能とする。
6. ブロック決戦主催団体が、独自に遠方からの参加者の補助を行うことは自由とする。
7. ブロック決戦主催団体の中で必ず、1 名はビブリオバトル普及委員会に入会のこと。
8. ブロック決戦の様子は終了後、本戦当日までの間にブログまたはウェブサイトなどを通して発信すること。また、それが「全国大学ビブリオバトル 2023」のブロック決戦であることを明記すること。
9. ブロック決戦主催団体が個別に協賛等を得ることは自由とする。また、ブロック決戦は、活字文化推進会議、一般社団法人ビブリオバトル協会、ビブリオバトル普及委員会が後援する。
主催：各ブロック決戦主催団体
後援：活字文化推進会議、一般社団法人ビブリオバトル協会、ビブリオバトル普及委員会
10. 本大会の個人情報の取扱いの指針に同意いただき、協力すること。
11. ブロック決戦はビブリオバトル公式ルール、および全国大学ビブリオバトルレギュレーションに則り開催すること。特に、ルールの補足についてもよく理解し、開催の際に必ずビブリオバトルの趣旨を観客も含めた参加者全員に周知すること。
12. ブロック決戦では紹介される本にテーマを設定することは不可とする。ブロック予選でのテーマの設定は自由とする。

<ブロック決戦交通費補助>

- ① 所属大学最寄り駅（鉄道）からブロック決戦会場最寄り駅（鉄道）の交通費が往復 3,000 円以上かかる出場者に限り、その半額（ただし、自己負担上限額を 5,000 円とする）が予選事務局より補助される。
- ② ブロック予選開催後、該当するブロック決戦出場者へ、予選事務局より申請について案内する。

- ③ 支給は予選事務局より出場者の金融機関口座へ直接振り込む。
*ブロック決戦がオンライン開催の場合、交通費の補助はない。

1-3 ブロック予選 開催概要

ブロック予選は、「全国大学ビブリオバトル 2023 ブロック決戦」に進む出場者を決めるイベントで、大会の出場希望者が最初に参加するビブリオバトルである。

<ブロック予選主催団体の役割>

① ブロック決戦出場者の決定

ブロック予選の運営を行い、各ブロック予選会場からブロック決戦出場者を1名決定すること。予選事務局の示すブロック予選開催要項を十分尊重しながら、ビブリオバトルの普及に役立つ形での運営を心がける。ブロック予選の開催については、ビブリオバトル公式ルール、ならびに全国大学ビブリオバトルレギュレーションを遵守して行うこと。オンライン開催の場合、オンライン開催の要件も遵守すること。

② 該当のブロック決戦主催者との連携

該当のブロック決戦主催者と連携し、出場者への通知などの対応を行う。また、ブロック予選終了後はすみやかに結果をブロック決戦主催者に報告すること。

③ ブロック決戦出場者の交通費補助申請

ブロック予選から選出したブロック決戦出場者には条件付きで交通費補助がある。ブロック予選主催団体は交通費補助の規定に該当するかどうかを確認し、予選事務局へ報告すること。

<ブロック予選主催団体 募集期間>

2023年6月3日～11月（もしくはブロック決戦主催団体の定める期日まで）

<ブロック予選 開催要項>

1. 原則 6月～11月（もしくはブロック決戦主催団体の定める期日まで）の期間に「全国大学ビブリオバトル 2023」の予選会となるビブリオバトルを開催し、ブロック決戦に出場する学生を決定すること。
2. ブロック予選の開催種別は、オープン開催とクローズ開催の2種類がある。
 - ・オープン開催：複数の大学・専門学校の学生が出場可能な開催
 - ・クローズ開催：出場者を特定の1つの大学・専門学校の学生に制限する開催

オープン開催が望ましいが、事情により出場者を限定する場合、クローズ開催を認める。クローズ開催をする場合は、下記3のB「9名以上の発表参加者による2階層以上の開催」を条件とする。

※複数の大学・専門学校から出場者を募集していれば、実際の出場者が1つの大学・専門学校からのみだったとしても、オープン開催として認められる。

※やむを得ない事情で9人未満のクローズ開催になる場合、事前にその旨を予選事務局に届け承認を得ること。

開催前に予選事務局およびブロック決戦主催団体まで開催日時・場所・告知サイトなどについて報告すること。少なくとも1週間前までが望ましい。

3. オープン開催の場合は下記 A、B どちらかの条件を、クローズ開催の場合は B の条件を満たすこと。

A. 原則として4名以上の発表参加者、かつ視聴参加者と発表参加者の合計が10名以上となるビブリオバトル。

B. 原則として9名以上の発表参加者による、2階層以上のブロック予選

A、Bともに、発表参加者は大学生・大学院生（*1）に限定する。

（*1）

- ・ 専門学校、高専生など大学生相当年齢の学生含む。
- ・ 社会人大学生・大学院生、履修生等は年齢は問わず参加資格があるものとする。
- ・ 大学・大学院・専門学校・高等専修学校については、学校教育法上該当するものに限る。
- ・ その年度の9月卒業生も含む。
- ・ 上記に該当しない学生で出場を希望される方は、予選事務局までご相談ください。

4. ブロック予選をオフライン開催するかオンライン開催するかは問わない。ハイブリッドの開催も認める。

オフライン開催：原則参加者が実在する会場に集まり、対面環境で行う開催

オンライン開催：原則参加者が Zoom、Google Meet、Teams 等を用いて、インターネット上の会場に集って行う開催

* オンライン開催の場合、 オンライン開催の要件も遵守すること。

5. すでに他のブロック予選でチャンプ本を獲得した者以外であれば、複数回ブロック予選に出場することも可能とする。ただし、同一の主催者が開催するブロック予選に、同じ学生が複数回出場することは不可とする。

6. 1つのブロック予選開催者が複数のブロック予選を開催した場合は、ブロック予選の数だけブロック決戦へチャンプ本獲得の学生を輩出することができるが、必ず公平を期した運営を行い、ブロック予選の情報については、開催毎にブロック決戦主催団体へ報告すること。

7. ブロック予選終了後、下記の内容をすみやかにブロック決戦主催団体まで報告すること。

- ① ブロック予選主催者情報（ブロック名、主催団体名、担当者名）
- ② ブロック予選情報（開催日、開催方法、ブロック予選会場）
- ③ ブロック予選の中で行われたビブリオバトルの階層数（1階層または2階層以上）

- ④ 発表参加者数（ブロック決戦出場者 1 名を決定したビブリオバトル（1 ゲーム）の発表参加者数）
 - ⑤ 発表参加者数（2 階層以上のブロック予選を行った場合、下位予選に出場した人数の合計）
 - ⑥ 発表参加者以外（視聴参加者）の参加者数（およそで構いません）
 - ⑦ 参加学校名（すべて（発表参加者））
 - ⑧ チャンプ本獲得者（ブロック決戦進出者）情報
 - ・氏名（ふりがな）
 - ・学校名、学部、学年
 - ・連絡先電話番号
 - ・連絡先メールアドレス（PC アドレス）
 - ・ブロック決戦会場への交通費補助の対象に該当するかどうか
 - ・チャンプ本情報（書籍名、作者名）
 - ⑨ チャンプ本以外の紹介本情報（書籍名）
8. ブロック予選申込み後、本要項を満たす開催が困難であると予想される場合は、すみやかに予選事務局、およびブロック決戦主催団体に連絡すること。
 9. ブロック予選の様子は終了後、本戦当日までの間にブログまたはウェブサイトなどを通して発信すること。詳細な形式は問わない。また、それが「全国大学ビブリオバトル 2023」のブロック予選であることを明記すること。
 10. 本大会の個人情報の取扱いの指針に同意いただき、協力すること。
 11. ブロック予選は公式ルール、および全国大学ビブリオバトルレギュレーションに則り開催すること。特に、ルールの補足についてもよく理解し、開催の際に必ずビブリオバトルの趣旨を観客も含めた参加者全員に周知すること。
 12. 紹介する本にテーマを設定しても構わない。ブロック決戦ではテーマの設定は不可とする。

1-4 オンライン開催の要件

1. 原則、発表時およびディスカッション時（ビブリオバトル公式ルール 2. と 3. に相当）、発表を行う参加者の映像・音声を、参加者全員が視聴できる状態であること。ただし、通信状況や通信機器のトラブル等による一時的な映像・音声の中断は認める。
2. 発表参加者側の通信環境が原因で発表・ディスカッションが中断された場合、原則発表・ディスカッションのやり直しは行わない。
3. 発表参加者が画面共有機能を使用することは不可とする。
4. ディスカッション時、質問をチャット機能などを用いてテキスト形式で募集しても構わない。ただし、その場合参加者は原則質問や感想、回答等をディスカッションの時間のみ送信できることとする。

1-5 ブロック予選・ブロック決戦 開催団体一覧

表 1-1. ブロック予選・ブロック決戦 開催団体一覧

ブロック	ブロック決戦主催団体名
北海道 A	ブロック決戦主催団体：ビブリオバトル北海道
	名寄市立大学図書館
	北海学園大学人文学部田中綾ゼミ
	坂本牧葉（北海道情報大学）
東北 A	ブロック決戦主催団体：海辺の図書館
	ノキシタビブリオ
	東北大学学習支援センター
	イーハトーブ・ビブリオバトル運営事務局
	東北学院大学中央図書館
	郡山女子大学図書館
関東 A	ブロック決戦主催団体：聖学院大学総合図書館
	帝京大学メディアライブラリーセンター
	聖学院大学総合図書館
	文教大学越谷図書館学生協働サポーター ほんだな係
	秋草学園短期大学
	城西大学水田記念図書館
関東 B	ブロック決戦主催団体：茨城県ビブリオバトル実行委員会
	常磐大学
	筑波大学ビブリオバトル実行委員会
	茨城キリスト教大学
	茨城大学
	茨城女子短期大学

関東 C	ブロック決戦主催団体：帝京大学メディアライブラリーセンター
帝京大学 共読サポーターズ	
千葉大学ビブリオバトル開催委員会 A	
青山学院大学万代記念図書館	
関東 D	ブロック決戦主催団体：高崎商科大学・群馬県大学図書館協議会共催
群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館	
高崎商科大学 A	
高崎商科大学 B	
育英大学・育英短期大学図書館	
中部内陸 A	ブロック決戦主催団体：都留文科大学附属図書館
図書館サークル Libropass	
山梨英和大学附属図書館	
ビブリオバトルこうしん	
東海 A	ブロック決戦主催団体：皇學館大学ビブロフィリア
皇學館大学ビブロフィリア A	
皇學館大学ビブロフィリア B	
皇學館大学岡野ゼミ	
北陸 A	ブロック決戦主催団体：金沢大学附属図書館
敬和学園大学図書館・敬和図書愛好会ライブラリオ	
金沢大学附属図書館 A	
金沢大学附属図書館 B	
福井大学附属図書館	
関西 A	ブロック決戦主催団体：龍谷大学図書館ライブラリーサポーター
大阪電気通信大学 寝屋川キャンパス図書館	
KDIX Bibliobattle-A	
KDIX Bibliobattle-B	

龍谷大学ライブラリーサポーター	
龍谷大学深草図書館	
関西 B	ブロック決戦主催団体： 大阪工業大学知的財産学部、大阪工業大学ビブリオバトルサークル【共催】
神戸大学附属図書館学生チーム ULiCS	
水野ゼミの本屋	
摂南大学図書館枚方分館	
関西 C	ブロック決戦主催団体：大阪経済大学図書館
大阪経済大学図書館 A	
大阪経済大学図書館 B	
大阪成蹊短期大学図書館	
追手門学院大学日本語表現 授業担当	
関西 D	ブロック決戦主催団体：生駒ビブリオ倶楽部、生駒市図書館
帝塚山大学文学部フミヨミプロジェクト	
奈良県立大学村瀬ゼミ 1 回生	
四天王寺大学図書館	
関西 E	ブロック決戦主催団体： 大阪工業大学知的財産学部、大阪工業大学ビブリオバトルサークル【共催】
大阪成蹊大学図書館	
大阪工業大学知的財産学部&大阪工業大学ビブリオバトルサークル【共催】 A	
大阪工業大学知的財産学部&大阪工業大学ビブリオバトルサークル【共催】 B	
関西 F	ブロック決戦主催団体：生駒ビブリオ倶楽部、生駒市図書館
摂南大学図書館サポーター	
生駒ビブリオ倶楽部、生駒市図書館	
大阪電気通信大学 四條畷キャンパス図書館	
中国 A	ブロック決戦主催団体： 島根県立大学松江キャンパス図書館学生図書委員会
島根県立大学松江キャンパス図書館学生図書委員会 A	

島根県立大学松江キャンパス図書館学生図書委員会 B	
島根県立大学松江キャンパス図書館学生図書委員会 C	
中国 B	ブロック決戦主催団体：環太平洋大学
環太平洋大学 A	
環太平洋大学 B	
環太平洋大学 C	
中国 C	ブロック決戦主催団体：鳥取県大学図書館等協議会
公立鳥取環境大学 情報メディアセンター	
鳥取大学 学生図書館ワーキンググループ	
鳥取看護大学・鳥取短期大学	
中国 D	ブロック決戦主催団体：広島県大学図書館協議会
広島工業大学附属図書館	
県立広島大学	
福山大学附属図書館	
中国 E	ブロック決戦主催団体：広島県大学図書館協議会
広島市立大学附属図書館	
福山市立大学図書館学生ボランティア福 books	
広島大学図書館	
四国 A	ブロック決戦主催団体：阿波ビブリオバトルサポーター
阿波ビブリオバトルサポーター	
鳴門 SF ミーティング	
まちライブラリー・ビブリオラボとくしま	
四国 B	ブロック決戦主催団体：愛媛地区大学図書館協議会 ビブリオバトル愛媛地区決戦実行委員会事務局
松山大学図書館・松山大学生生活協同組合 A	
松山大学図書館・松山大学生生活協同組合 B	
愛媛県立医療技術大学 A	

愛媛県立医療技術大学 B	
松山大学「児童サービスでもビバ！」	
九州 A	ブロック決戦主催団体：福岡女子短期大学
鎮西学院大学附属図書館 A	
九州女子大学 生活デザイン学科	
日本赤十字九州国際看護大学図書館運営委員会	
福岡女子短期大学文化教養学科 A	
福岡女子短期大学文化教養学科 B	
九州 B	ブロック決戦主催団体：鹿児島大学
鹿児島大学図書館サポーターおよび宮崎大学附属図書館サポーターA	
鹿児島大学図書館サポーターおよび宮崎大学附属図書館サポーターB	
鹿児島大学図書館サポーターおよび宮崎大学附属図書館サポーターC	
九州 C	ブロック決戦主催団体：福岡女子短期大学
鎮西学院大学附属図書館 B	
北九州市立大学図書館	
鎮西学院大学 ぶっく倶楽部	
福岡女子短期大学図書館	
全国 A	ブロック決戦主催団体：一般社団法人ビブリオバトル協会
千葉大学ビブリオバトル開催委員会 B	
大東文化大学図書館	
中部学院大学	
本戦開催校枠	主催団体：昭和女子大学ビブリオバトル実行委員会

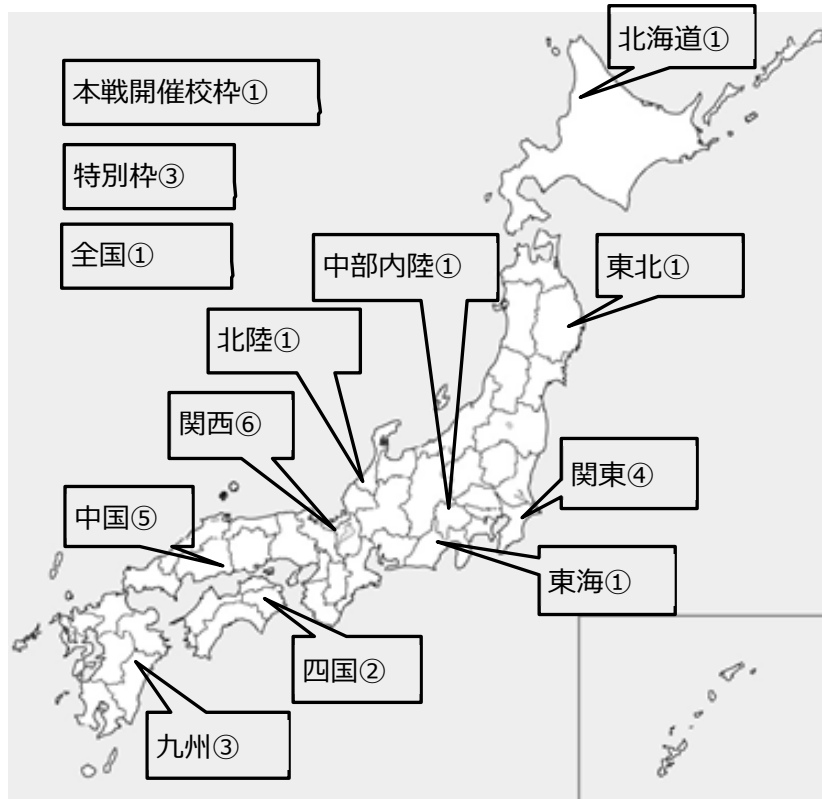


図 1-1. 各ブロックの本戦参加枠数配分

2 ブロック予選・ブロック決戦 開催報告

2023 年は前年度と同様の本戦主催体制で、ブロック予選・ブロック決戦主催団体の募集を 6 月にスタートし、本戦の 12 月に向けてほぼ半年間をかけて、ブロック予選・ブロック決戦を開催した。また、前大会に続き「特別枠制度※」を実施し、本戦発表は 30 名参加となった。過去の情報を含めたブロック予選・ブロック決戦および本戦の各参加数を表 2-1 に示す。

表 2-1. ブロック予選・ブロック決戦および本戦 参加数

年度	予選会*1 開催数	予選会 発表 参加者数*2	予選会 観客数*3 (およそ)	予選会 参加学校数	本戦 発表 参加者数	本戦 観客数*5 (およそ)
2023 年	122 回	1,583 名	5,658 名	93 校	30 名	400 名
2022 年	104 回	1,524 名	2,234 名	81 校	25 名	300 名
2021 年	28 回	624 名	1,179 名	51 校	30 名	235 名
2020 年	28 回	494 名	800 名	60 校	23 名	199 名
2019 年	293 回	1,526 名	5,450 名	128 校	36 名	400 名
2018 年	223 回	1,598 名	4,597 名	115 校	36 名	800 名
2017 年	209 回	1,090 名	5,044 名	127 校	36 名	350 名
2016 年	228 回	1,207 名	5,600 名	125 校	29 名	500 名
2015 年	181 回	914 名	4,500 名	98 校	30 名	450 名
2014 年	180 回	874 名	4,400 名	130 校	30 名	450 名
2013 年	177 回	804 名	4,000 名	124 校	30 名	3,300 名
2012 年	132 回	524 名	2,400 名	92 校	32 名	3,000 名
2011 年	32 回	182 名	950 名	32 拠点*4	34 名	1,600 名
2010 年	15 回	53 名	—	28 校	20 名	450 名

*1 予選会は、ブロック予選・ブロック決戦の合計（2023 年は予選会開催回数）

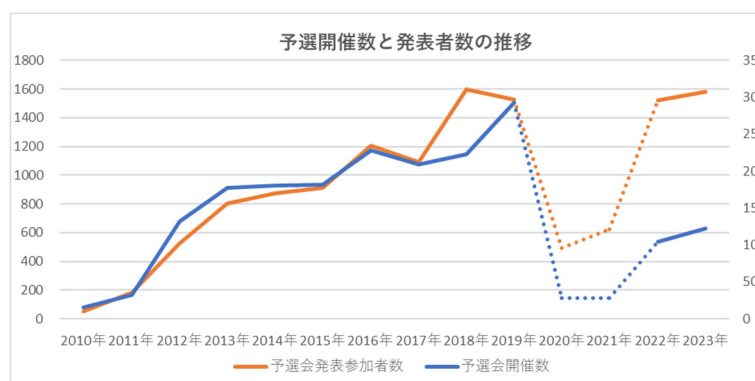
*2 発表参加者数（2023 年は実人数）

*3 観客数は延べ人数

*4 2011 年の参加学校数は 36 大学以上

*5 本戦観客数は 2013 年度までは延べ人数、2014 年度以降は入場者数

◆2020 年、2021 年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止になったため、代替大会として「[大学ビブリオバトル・オンライン大会 2020](#)」「[大学ビブリオバトル・オンライン大会 2021](#)」を開催した。2020 年大会の本戦観客数は Zoom 参加者数。2021 年大会の本戦観客数は Zoom の投票者数。



※特別枠制度（敗者復活枠・追加配分枠・本戦開催校枠）について

特別枠は、原則、以下の場合に本戦への出場枠を追加する。

- ・敗者復活枠：本戦出場枠数に対する発表参加者数が他のブロックに比べて多く、各発表参加者に不公平が生じると判断されたブロックへ新たに枠を与える。原則、次点発表参加者が特別枠候補となる。
- ・追加配分枠：一つのブロック決戦主催団体が多くのブロック予選を開催し、一地区として独立させることが妥当とされる場合や、地域全体の状況や全国の状況から新たに枠を与えるに値すると判断された場合、新たに枠を与える。
- ・本戦開催校枠：本戦の会場となった大学に対して、1枠与える。

2-1 ブロック予選報告

各ブロック別のブロック予選開催状況を表 2-2 に示す。ウェブサイト上で公開された各地のブロック予選・ブロック決戦の開催の様子についてまとめた報告書は、公式ウェブサイトの記録ページにて公開している。<http://zenkoku.bibliobattle.jp/records2023>

表 2-2. ブロック予選開催状況

団体名	開催日	開催場所	発表者数	観客数
北海道 A ブロック				
名寄市立大学図書館	7/9	大学祭野外ステージ	2*	20
北海学園大学人文学部田中綾ゼミ	10/17	北海学園大学豊平キャンパス A202 教室	5	7
坂本牧葉 (北海道情報大学)	10/19	北海道情報大学附属図書館	3*	7
北海道 A ブロック 計			10	34
東北 A ブロック				
ノキシタビブリオ	10/7	Open Village ノキシタ エンガワ離れ+Zoom	4	9
東北大学学習支援センター	10/25	東北大学 川内北キャンパス マルチメディア棟 M203 教室	6	22
イーハトーブ・ビブリオバトル運営事務局	10/29	岩手県立図書館 4F ミニシアター	6	50
郡山女子大学図書館	10/31	郡山女子大学芸術館大教室	4	36
東北学院大学中央図書館	11/9	東北学院大学 土樋キャンパス 中央図書館 1 階 学習室	5	25
東北 A ブロック 計			25	142
関東 A ブロック				
城西大学水田記念図書館	10/4	対面：城西大学図書館 7 階 オンライン (観戦)：Zoom	7	53
帝京大学メディアライブラリーセンター	10/15	帝京大学メディアライブラリーセンター	4	37
秋草学園短期大学	10/20 10/23 10/29	秋草学園短期大学構内	9	67
聖学院大学総合図書館	11/3	聖学院大学総合図書館	4	24
文教大学越谷図書館学生協働サポーター ほんだな係	11/5	文教大学 越谷キャンパス 12 号館 101 教室	6	47
関東 A ブロック 計			30	228

関東 B ブロック				
常磐大学	10/6	常磐大学 H 棟 大講義室	5	32
筑波大学ビブリオバトル実行委員会	10/11	Zoom	4	11
茨城キリスト教大学	10/17	茨城キリスト教大学図書館 2F ラーニングコモンズエリア	5	17
茨城大学	10/18	茨城大学図書館ライブラリホール + Zoom	4	35
茨城女子短期大学	10/20	茨城女子短期大学視聴覚室	4	51
関東 B ブロック 計			22	146
関東 C ブロック				
青山学院大学万代記念図書館	10/7	青山学院大学万代記念図書館	2*	16
帝京大学 共読サポーターズ	10/14	帝京大学メディアライブラリーセンター	58	145
千葉大学ビブリオバトル開催委員会 A	10/17	千葉大学西千葉メインキャンパス G4-4 2 教室	6	15
関東 C ブロック 計			66	176
関東 D ブロック				
高崎商科大学 A	9/4	高崎商科大学	5	11
高崎商科大学 B	9/4	高崎商科大学	6	11
育英大学・育英短期大学図書館	10/11	育英大学・育英短期大学図書館	4	6
群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館	10/26	群馬大学総合情報メディアセンター 中央図書館	11	4
関東 D ブロック 計			26	32
中部内陸 A ブロック				
図書館サークル Libropass	10/10	都留文科大学 3201 教室	4	16
山梨英和大学附属図書館	10/25	山梨英和大学附属図書館	5	13
ビブリオバトルこうしん	11/3	都留文科大学附属図書館	4	12
中部内陸 A ブロック 計			13	41

東海 Aブロック				
皇學館大学ビブロフィリア A	10/24	皇學館大学附属図書館 2階 ラーニングcommons	4	7
皇學館大学ビブロフィリア B	11/2	皇學館大学附属図書館 2階 ラーニングcommons	4	7
皇學館大学岡野ゼミ	11/2	皇學館大学 5号館 521 教室	3*	17
東海 Aブロック 計			11	31
北陸 Aブロック				
敬和学園大学図書館・敬和図書 愛好会ライブラリオ	10/10	敬和学園大学図書館	4	7
金沢大学附属図書館 A	10/12	金沢大学角間キャンパス 総合教育棟 A1 講義室	4	16
金沢大学附属図書館 B	10/25	金沢大学角間キャンパス 総合教育棟 A1 講義室	3	15
福井大学附属図書館	10/27	福井大学総合図書館 1階メディアコ モンズ	6	10
北陸 Aブロック 計			17	48
関西 Aブロック				
大阪電気通信大学 寝屋川キャン パス図書館	10/27	大阪電気通信大学 寝屋川キャンパス図書館	7	30
龍谷大学ライブラリーサポータ ー	10/30	龍谷大学深草図書館 ナレッジスク エア	4	7
KDIX Bibliobattle-A	10/28	まちライブラリー in 東大阪市文化創 造館	4	20
KDIX Bibliobattle-B	10/28	まちライブラリー in 東大阪市文化創 造館	4	18
龍谷大学深草図書館	11/8	龍谷大学深草図書館 ナレッジスク エア	4	11
関西 Aブロック 計			23	86
関西 Bブロック				
摂南大学図書館枚方分館	10/7	摂南大学枚方キャンパス 8207 教室	6	6
水野ゼミの本屋	10/8	水野ゼミの本屋	4	8
神戸大学附属図書館学生チーム ULiCS	10/19	神戸大学自然科学系図書館 4階 イノベーションスタジオ	4	12
関西 Bブロック 計			14	26

関西 C ブロック				
大阪経済大学図書館 A	6/30	大阪経済大学 C 館	4	20
追手門学院大学 日本語表現	7/25	追手門学院大学総持寺キャンパス図書館 3階アカデミックアリーナ	312	2,000
大阪成蹊大学・短期大学図書館	10/8	大阪成蹊大学・短期大学図書館棟 7階ホール	24	75
大阪経済大学図書館 B	10/20	大阪経済大学図書館	6	17
関西 C ブロック 計			346	2,112
関西 D ブロック				
帝塚山大学文学部フミヨミプロジェクト	11/10	帝塚山大学東生駒キャンパス 1号館 1205	7	17
奈良県立大学村瀬ゼミ 1回生	11/20	にこちゃん堂	4	13
四天王寺大学図書館	10/25 10/26 10/30 11/3	四天王寺大学 3号館 1階 ラーニングcommons	10	61
関西 D ブロック 計			21	91
関西 E ブロック				
大阪成蹊大学図書館	10/13	大阪成蹊大学 図書館棟 3階ホール ラーニングcommons	15	70
大阪工業大学知的財産学部 & 大阪工業大学ビブリオバトルサークル【共催】A	10/26	大阪工業大学 1号館 8階 181 セミナ一室	6	14
大阪工業大学知的財産学部 & 大阪工業大学ビブリオバトルサークル【共催】B	10/26	大阪工業大学 8階情報演習室 1	6	30
関西 E ブロック 計			27	114
関西 F ブロック				
摂南大学図書館サポーター	9/21	摂南大学図書館 1階ラーニングcommons	5	6
生駒ビブリオ倶楽部、生駒市図書館	10/22	生駒市図書館	4	8
大阪電気通信大学 四條畷キャンパス図書館	11/15	大阪電気通信大学 四條畷キャンパス図書館	4	7
関西 F ブロック 計			13	21

中国 A ブロック				
島根県立大学松江キャンパス学生図書委員会 A	6/28	島根県立大学松江キャンパス図書館	5	12
島根県立大学松江キャンパス学生図書委員会 B	9/21	島根県立大学松江キャンパスオロリン広場	5	17
島根県立大学松江キャンパス学生図書委員会 C	10/18	島根県立大学松江キャンパス図書館	6	10
中国 A ブロック 計			16	39
中国 B ブロック				
環太平洋大学 A	7/16	環太平洋大学	202	32
環太平洋大学 B	8/5	環太平洋大学	201	16
環太平洋大学 C	8/6	環太平洋大学	201	21
中国 B ブロック 計			604	69
中国 C ブロック				
公立鳥取環境大学 情報メディアセンター	10/13	公立鳥取環境大学 情報メディアセンター	4	10
鳥取看護大学・鳥取短期大学	10/15	鳥取看護大学・鳥取短期大学 図書館	7	20
鳥取大学 学生図書館ワーキンググループ	10/24	鳥取大学附属図書館	3	17
中国 D ブロック 計			14	47
中国 D ブロック				
県立広島大学	10/21	サテライトキャンパスひろしま	4	18
広島工業大学附属図書館	10/25	広島工業大学講義棟 (Nexus21)	4	50
福山大学附属図書館	10/28	福山大学附属図書館	7	18
中国 D ブロック 計			15	86
中国 E ブロック				
福山市立大学図書館学生ボランティア福 books	10/19	啓文社 BOOK PLUS 緑町 BOOK MEETS COFFEE	4	32
広島市立大学附属図書館	10/28	広島市立大学附属図書館	6	26
広島大学図書館	11/4	広島大学中央図書館 BIBLA グループスペース	5	15
中国 E ブロック 計			15	73

四国 A ブロック				
阿波ビブリオバトルサポーター	9/9	Zoom	4	6
鳴門 SF ミーティング	9/23	うずしお会館	4	11
まちライブラリー・ビブリオラボとくしま	11/18	徳島大学総合科学部	4	8
四国 A ブロック 計			12	25
四国 B ブロック				
松山大学図書館・松山大学生生活協同組合 A	6/30	松山大学文京キャンパス 2 号館 214 番教室	8	25
愛媛県立医療技術大学 A	7/18	愛媛県立医療技術大学	38	4
愛媛県立医療技術大学 B	7/18	愛媛県立医療技術大学	37	4
松山大学「児童サービスでもビバ！」	7/20	松山大学 843 教室	9	1
松山大学図書館・松山大学生生活協同組合 B	10/20	松山大学文京キャンパス 2 号館 214 番教室	8	25
四国 B ブロック 計			100	59
九州 A ブロック				
福岡女子短期大学文化教養学科 A	6/28	福岡女子短期大学	19	3
福岡女子短期大学文化教養学科 B	6/28	福岡女子短期大学	14	4
鎮西学院大学附属図書館 A	8/30	諫早市立諫早図書館	4	15
九州女子大学 生活デザイン学科	10/21	九州女子大学 思静館 5 階ホール	38	105
日本赤十字九州国際看護大学 図書館運営委員会	7/12 8/3 11/7 11/10	日本赤十字九州国際看護大学 ラーニングcommons	10	71
九州 A ブロック 計			85	198

九州 B ブロック				
鹿児島大学図書館サポーターおよび宮崎大学附属図書館サポーターA	9/30	鹿児島大学中継会場・宮崎大学中継会場・Microsoft Teams	4	17
鹿児島大学図書館サポーターおよび宮崎大学附属図書館サポーターB	9/30	鹿児島大学中継会場・宮崎大学中継会場・Microsoft Teams	4	10
鹿児島大学図書館サポーターおよび宮崎大学附属図書館サポーターC	10/1	鹿児島大学中継会場・宮崎大学中継会場・Microsoft Teams	4	13
九州 B ブロック 計			12	40
九州 C ブロック				
鎮西学院大学附属図書館 B	9/24	長崎歴史文化博物館	4	15
鎮西学院大学ぶっく倶楽部	10/12	鎮西学院大学附属図書館	5	12
北九州市立大学図書館	10/28	北九州市立大学図書館 本館 1F 図書館ホール	5	24
福岡女子短期大学図書館	10/28	福岡女子短期大学	3	25
九州 C ブロック 計			17	76
全国 A ブロック				
千葉大学ビブリオバトル開催委員会 B	10/24	千葉大学西千葉キャンパス図書館オープンスペース	13	21
中部学院大学	10/30	中部学院大学関キャンパス L.E.A.P.Plaza	5	23
大東文化大学図書館	11/11	大東文化大学 60 周年記念図書館 AV ホール	5	34
全国 A ブロック 計			23	78
本戦開催校枠				
昭和女子大学ビブリオバトル実行委員会	10/25	昭和女子大学	6	33
総合計			1,583	4,151

*当日の体調不良や交通事情により辞退者あり。

表 2-3. 予選会発表参加者 所属校一覧

青山学院大学	県立広島大学	東北福祉大学
秋草学園短期大学	皇學館大学	常磐大学
阿南工業高等専門学校	神戸大学	常磐短期大学
育英大学	公立鳥取環境大学	徳島大学
育英短期大学	郡山女子大学	鳥取大学
石川県立大学	埼玉大学	鳥取短期大学
茨城大学	四天王寺大学	名寄市立大学
茨城キリスト教大学	島根県立大学短期大学部	奈良大学
茨城女子短期大学	島根県立大学	奈良県立大学
岩手大学	城西大学	奈良女子大学
岩手医科大学	昭和女子大学	日本赤十字九州国際看護大学
叡啓大学	聖学院大学	広島工業大学
愛媛県立医療技術大学	摂南大学	広島工業大学大学院
追手門学院大学	仙台医療福祉専門学校	広島市立大学
大阪経済大学	大東文化大学	広島大学
大阪工業大学	高崎経済大学	福井大学
大阪国際大学	高崎商科大学	福井県立大学
大阪成蹊大学	高崎商科大学短期大学部	福岡女子短期大学
大阪成蹊短期大学	千葉大学	福山大学
大阪電気通信大学	中央大学	福山市立大学
大阪ハイテクノロジー専門学校	中部学院大学	文教大学
鹿児島大学	鎮西学院大学	北海学園大学
金沢大学	筑波大学	北海道情報大学
環太平洋大学	都留文科大学	松山大学
北九州市立大学	帝京大学	宮崎大学
九州女子大学	帝京平成大学	宮崎国際大学
京都外国語大学	帝塚山大学	盛岡大学
近畿大学	東京都市大学	山梨英和大学
群馬大学	東北大学	横浜国立大学
芸術文化観光専門職大学	東北学院大学	立命館大学
敬和学園大学	東北工業大学	龍谷大学

合計 93校

2-2 ブロック決戦報告

表 2-4. ブロック決戦開催状況

ブロック	主催団体名	開催日	開催場所	発表者数(名)	観客数(名)
北海道 A	ビブリオバトル北海道	11/12	Zoom	3	10
東北 A	海辺の図書館	11/18	せんだい 3.11 メモリアル交流館	5	20
関東 A	聖学院大学総合図書館	11/11	イオンモール上尾 サウスコート	5	38
関東 B	茨城県ビブリオバトル実行委員会	11/5	茨城県立図書館 + YouTube 配信	5	113
関東 C	帝京大学メディアライブラリーセンター	10/25	図書館総合展 2023 会場 (パシフィコ横浜)	3	38
関東 D	高崎商科大学・群馬大学図書館協議会	11/3	群馬県庁 32 階 NETSUGEN	3*	26
中部内陸 A	都留文科大学附属図書館	11/3	都留文科大学附属図書館	3	33
東海 A	皇學館大学ビブロフィリア	11/17	皇學館大学 5 号館 535 教室	3	8
北陸 A	金沢大学附属図書館	11/18	石川県立図書館 だんだん広場	4	68
関西 A	龍谷大学図書館ライブラリーサポーター	11/18	龍谷大学 深草キャンパス 和顔館 アクティビティホール	4	19
関西 B	大阪工業大学知的財産学部、大阪工業大学ビブリオバトルサークル	11/5	大阪工業大学梅田キャンパス	3	29
関西 C	大阪経済大学図書館	11/4	大阪経済大学図書館	4	34
関西 D	生駒市図書館、生駒ビブリオ倶楽部	11/26	生駒市図書館 第 2 研修室	3	31
関西 E	大阪工業大学知的財産学部、大阪工業大学ビブリオバトルサークル	11/5	大阪工業大学梅田キャンパス	3	25
関西 F	生駒市図書館、生駒ビブリオ倶楽部	11/26	生駒市図書館 第 2 研修室	3	32
中国 A	島根県立大学松江キャンパス図書館学生図書委員会	11/3	石見銀山まちを楽しくするライブラリー	3	23
中国 B	環太平洋大学	10/28	環太平洋大学ディスカバリー・プレゼンテーションラボ	3	700

中国 C	鳥取県大学図書館等協議会	11/11	鳥取大学附属図書館ラーニングcommons、Google Meet	3	17
中国 D	広島県大学図書館協議会	11/11	広島大学 SENDA LAB	3	26
中国 E	広島県大学図書館協議会	11/11	広島大学 SENDA LAB	3	26
四国 A	阿波ビブリオバトル サポーター	11/18	Zoom	3	14
四国 B	愛媛地区大学図書館協議会 ビブリオバトル愛媛地区決戦実行委員会事務局	10/28	愛媛大学 E.U.Regional Commons(ひめテラス)3F 地域サステナビリティスペース	5	11
九州 A	福岡女子短期大学	11/18	福岡女子短期大学	5	35
九州 B	鹿児島大学	10/28	鹿児島大学 中央図書館 + Teams	3	14
九州 C	福岡女子短期大学	11/18	福岡女子短期大学	4	35
全国 A	一般社団法人ビブリオバトル協会	11/23	Zoom	3	21
本戦開催校枠	昭和女子大学	11/12	昭和女子大学	3	61
合 計				95	1,507

*ブロック予選チャンプ本獲得者によるブロック決戦出場辞退のため、欠場者あり。

表 2-5. ブロック決戦結果一覧

ブロック	チャンプ本獲得者	所属名	ブロック決戦チャンプ本
北海道 A	神内 圭太	北海学園大学 人文学部 3年	『大きなパンダと小さなドラゴン』 ジェームズ・ノーブリー (著) サンマーク出版
東北 A	楠 裕人	東北大学 文学部 4年	『小説の小説』 似鳥鶏 (著) KADOKAWA
関東 A	小林 捺哉	帝京大学 教職大学院教職研究科 2年	『あわのまにまに』 吉川トリコ (著) KADOKAWA
関東 B	横山 黎	茨城大学 教育学部 4年	『小説の小説』 似鳥鶏 (著) KADOKAWA
関東 C	高瀬 皓太	帝京大学 文学部 3年	『もぐ∞』 最果タヒ (著) 産業編集センター
関東 D	森 華莉奈	高崎商科大学 短期大学部短期大学部 1年	『何者』 朝井リョウ (著) 新潮社
中部内陸 A	三井 結	都留文科大学 文学部 1年	『マカン・マラン 二十三時の夜食カ フェ』 古内一絵 (著) 中央公論新社
東海 A	大橋 花弥	皇學館大学 文学部 3年	『るん (笑)』 西島伝法 (著) 集英社
北陸 A	野形 啓	金沢大学 人間社会学域 4年	『MOMOTARO』 芥川龍之介 (著) ピエ・ブックス
関西 A	小坂 世志朗	大阪電気通信大学 総合情報学部 2年	『仕掛学:人を動かすアイデアのつ くり方』 松村真宏 (著) 東洋経済新報社
関西 B	佐久間 諒	神戸大学 農学部 3年	『同姓同名』 下村敦史 (著) 幻冬舎
関西 C	村上 乃音	大阪成蹊短期大学 経営会計学科 1年	『カラフル』 森絵都 (著) 文藝春秋
関西 D	永津 隆史	四天王寺大学 教育学部 1年	『ヒトラーの側近たち』 大澤武男 (著) 筑摩書房

関西 E	山内 美来	大阪成蹊大学 国際観光学部 1年	『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス（著） 早川書房
関西 F	巽 悠介	摂南大学 法学部 4年	『正しいブスのほめ方プレミアム』 トキオ・ナレッジ（著） 宝島社
中国 A	福田 倫世	島根県立大学 人間文化学部 4年	『フーガはユーガ』 伊坂幸太郎（著） 実業之日本社
中国 B	木下 琴梨	環太平洋大学 次世代教育学部 1年	『武士道シックスティーン』 誉田哲也（著） 文藝春秋
中国 C	佐々木 里桜	鳥取大学 地域学部 2年	『トイレで読む、トイレのためのトイ レ小説』 電月あさみ（著） ヨシタケシンスケ（イラスト） KADOKAWA
中国 D	川上 健瑠	広島工業大学 大学院工学系研究科 1年	『十角館の殺人』 綾辻行人（著） 講談社
中国 E	大島 粋	広島市立大学 国際学部 1年	『もうひとつのワンダー』 R.J.パラシオ（著） 中井はるの（訳） ほるぷ出版
四国 A	星野 凜	徳島大学 総合科学部 3年	『地球生活記 世界ぐるりと家めぐ り』 小松義夫（写真・文） 福音館書店
四国 B	石崎 杏香	愛媛県立医療技術大学 保健科学部臨床検査学科 1年	『愛するよりも愛されたい』 佐々木良（著） 万葉社
九州 A	財部 日菜子	福岡女子短期大学 文化教養学科 1年	『ひらいて』 綿矢りさ（著） 新潮社
九州 B	東野 圭吾	宮崎大学 農学部 3年	『妄想銀行』 星新一（著） 新潮社
九州 C	広石 輝	北九州市立大学 地域創生学群地域創生学 類 4年	『サピエンス全史』 ユヴァル・ノア・ハラリ（著） 柴田裕之（訳） 河出書房新社
全国 A	山上 出雲	大東文化大学 文学部日本文学科 4年	『あなたの燃える左手で』 朝比奈秋（著） 河出書房新社

表 2-6. 特別枠一覧

ブロック	特別枠選出者	大学名	ブロック決戦紹介本
東北 A	菅野 香子	郡山女子大学 短期大学部専攻科 2年	『古代ギリシャのリアル』 藤村シシン（著） 実業之日本社
関東 A	拝生 眞佑	埼玉大学 教養学部 4年	『1981年のスワンソング』 五十嵐貴久（著） 幻冬舎
関西 B	林 仁	筑波大学 社会学類 3年	『穴と境界 存在論的探究（増補版）』 加地大介（著） 春秋社
本戦開催校枠	三村 紗楽	昭和女子大学 人間文化部 3年	『死神の精度』 伊坂幸太郎（著） 文藝春秋

3 本戦 開催報告

<本戦 開催概要>

開催日時：2023年12月17日（日）

開催場所：昭和女子大学（東京都世田谷区太子堂 1-7-57）

主催：活字文化推進会議

共催：一般社団法人ビブリオバトル協会、ビブリオバトル普及委員会

主管：読売新聞社

発表参加者：30名

<プログラム>

12:00	開会式
12:30～14:30	セミファイナル 前半：セミファイナル①②③ 後半：セミファイナル④⑤⑥
14:45～	トークセッション [ゲスト] 角田 光代さん（作家） 村田 諒太さん（元ボクシング世界王者、金メダリスト）
15:30～	ファイナル
17:00	閉会式（結果発表・表彰式・記念撮影）

3-1 セミファイナル

表 3-1. セミファイナル出場者・紹介本一覧（結果）

セミファイナル①：8号館 5L44

ブロック	紹介本	氏名	所属
北海道 A	『大きなパンダと小さなドラゴン』 ジェームズ・ノーブリー（著）	神内 圭太	北海学園大学 人文学部 3年
中部内陸 A	『マカン・マラン 二十三時の夜食カフェ』 古内一絵（著）	三井 結	都留文科大学 文学部 1年
中国 A	『フーガはユーガ』 伊坂幸太郎（著）	福田 倫世	島根県立大学 人間文化学部 4年
中国 B	『武士道シックスティーン』 誉田哲也（著）	木下 琴梨	環太平洋大学 次世代教育学部 1年
北陸 A	★チャンプ本 『MOMOTARO』 芥川龍之介（著）	野形 啓	金沢大学 人間社会学域 4年

セミファイナル②：8号館 6L41（コスモスホール）

ブロック	紹介本	氏名	所属
東北 A	『レジまでの推理 ～本屋さんの名探偵～』 似鳥鶏（著）	楠 裕人	東北大学 文学部 4年
九州 C	『サピエンス全史』 ユヴァル・ノア・ハラリ（著） 柴田裕之（訳）	広石 輝	北九州市立大学 地域創生学群地域創生学類 4年
関西 E	『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス（著）	山内 美来	大阪成蹊大学 国際観光学部 1年
中国 C	『トイレで読む、トイレのためのトイレ小説』 電月あさみ（著）	佐々木 里桜	鳥取大学 地域学部 2年
関東 A	★チャンプ本 『るん（笑）』 西島伝法（著）	小林 捺哉	帝京大学教職大学院 教職研究科 2年

セミファイナル③：8号館 6L01（オーロラホール）

ブロック	紹介本	氏名	所属
全国 A	★チャンプ本 『あなたの燃える左手で』 朝比奈秋（著）	山上 出雲	大東文化大学 文学部 4年
東海 A	『るん（笑）』 西島伝法（著）	大橋 花弥	皇學館大学 文学部 3年
関西 F	『正しいブスのほめ方プレミアム』 トキオ・ナレッジ（著）	巽 悠介	摂南大学 法学部 4年
中国 D	『十角館の殺人』 綾辻行人（著）	川上 健瑠	広島工業大学大学院 工学系研究科 1年
東北 A （特別枠）	『古代ギリシャのリアル』 藤村シンシ（著）	菅野 香子	郡山女子大学 短期大学部専攻科 2年

セミファイナル④：8号館 5L44

ブロック	紹介本	氏名	所属
関東 B	『Good Luck』 アレックス・ロビラ（著） フェルナンド・トリアス・デ・ベス（著）	横山 黎	茨城大学 教育学部 4年
関東 B	★チャンプ本 『同姓同名』 下村敦史（著）	佐久間 諒	神戸大学 農学部 3年
四国 A	『変愛小説集』 岸本佐知子（編・訳）	星野 凜	徳島大学大学院 総合科学教育部 3年
中国 E	『もうひとつのワンダー』 R.J.パラシオ（著）	大島 粹	広島市立大学 国際学部 1年
関東 A （特別枠）	『1981年のスワンソング』 五十嵐貴久（著）	拝生 眞佑	埼玉大学 教養学部 4年

セミファイナル⑤：8号館 6L41（コスモスホール）

ブロック	紹介本	氏名	所属
関東 C	★チャンプ本 『もぐ∞』 最果タヒ（著）	高瀬 皓太	帝京大学 文学部 3年
関西 A	『仕掛学：人を動かすアイデアの作り方』 松村真宏（著）	小坂 世志朗	大阪電気通信大学 総合情報学部 2年
四国 B	『愛するよりも愛されたい』 佐々木良（著）	石崎 杏香	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 1年
九州 A	『ひらいて』 綿矢りさ（著）	財部 日菜子	福岡女子短期大学 文化教養学科 1年
関東 B （特別枠）	『穴と境界 存在論的探究 （増補版）』 加地大介（著）	林 仁	筑波大学 社会学類 3年

セミファイナル⑥：8号館 6L01（オーロラホール）

ブロック	紹介本	氏名	所属
関西 D	『ヒトラーの側近たち』 大澤武男（著）	永津 隆史	四天王寺大学 教育学部 1年
関東 D	『何者』 朝井リョウ（著）	森 華莉奈	高崎商科大学 短期大学部 1年
関西 C	『カラフル』 森絵都（著）	村上 乃音	大阪成蹊短期大学 経営会計学科 1年
九州 B	★チャンプ本 『妄想銀行』 星新一（著）	東野 圭吾	宮崎大学 農学部 3年
本戦開催校枠 （特別枠）	『死神の精度』 伊坂幸太郎（著）	三村 紗楽	昭和女子大学 人間文化学部 3年

3-2 ファイナル

表 3-2. ファイナル進出者・紹介本一覧（結果）

ブロック	紹介本	氏名	所属
九州 B	『妄想銀行』 星新一（著）	東野 圭吾	宮崎大学 農学部 3年
関東 A	☆準グランドチャンプ本 『るん（笑）』 西島伝法（著）	小林 捺哉	帝京大学教職大学院 教職研究科 2年
北陸 A	『MOMOTARO』 芥川龍之介（著）	野形 啓	金沢大学 人間社会学域 4年
関西 B	☆グランドチャンプ本 『同姓同名』 下村敦史（著）	佐久間 諒	神戸大学 農学部 3年
関東 C	『もぐ∞』 最果夕ヒ（著）	高瀬 皓太	帝京大学 文学部 3年
全国 A	☆ゲスト特別賞 『あなたの燃える左手で』 朝比奈秋（著）	山上 出雲	大東文化大学 文学部 4年

4 「全国大学ビブリオバトル 2023～首都決戦～」本戦レポート

ビブリオバトル普及委員会 小松崎浩司

2023年12月17日曜日。東京は前日までぐずついた天候が続いていました。ところが当日は会場から富士山も見えるような真っ青な空となり、午後1時「全国大学ビブリオバトル 2023～首都決戦～」が開幕しました。司会はビブリオバトルではお馴染みのカモシダせぶんと酒井瞳さん（ともに松竹芸能）の進行で開会式が始まりました。



お二人の軽快なトークで一気に会場の熱量が上昇↑↑↑。北から順に北海道ブロック代表の北海学園大学人文学部神内圭太さんを皮切りに全30名の発表参加者が紹介されました。

その後主催者代表として読売新聞東京本社活字文化推進会議の新庄秀規さんからのご挨拶。今年度から投票時に手に掲げるものが普通の形のうちわから軍配形のものに変更した旨が伝えられ、会場のみんで軍配を振って一気にニコニコ。会場に更なる一体感が生まれました。引き続き一般社団法人ビブリオバトル協会代表理事の谷口忠大さんのご挨拶があり、その中で対話型AIとビブリオバトル、対話型AIと読書の関係性について語られました。ChatGPTはたくさん読書をしているから、より知識が増えていくのと同様に、人が読書をするのも同じことであり大切なことだと力説されていました。最後にカモシダさんによる公式ルールと首都決戦レギュレーションの説明があり、開会式は終了。参加者の人たちは各々気になるバトルが行われるセミファイナル会場へ移動して行きました。私は、前半はセミファイナル①、後半はセミファイナル⑥の会場で観戦することにしました。

【セミファイナル①】

開会式終了後参加者の皆さんが着席した後、数分して発表参加者の皆さんが到着。ブリーフィングの後、司会の亀山綾乃さんから開始の挨拶と参加者への説明がされました。そして発表順を決めるくじ引き。会場全体が注目する中、以下のような順に決まりました。

1. 都留文科大学文学部 三井結さん
2. 北海学園大学人文学部 神内圭太さん

3. 金沢大学人間社会学域学校教育学類 野形啓さん
4. 環太平洋大学次世代教育学部 木下琴梨さん
5. 島根県立大学人間文化学部 福田倫世さん

くじ引きの結果が会場に伝えられると、発表参加者の皆さんは着席し、トップバッターの三井さんが登壇。亀山さんとのアイコンタクトの上、早速スタートしました。

1. **三井結さん 古内一絵著『マカン・マラン：二十三時の夜食カフェ』中央公論新社（2015）**
ドラッグクイーンの主人公が勤めるカフェ「マカン・マラン」。最近お亡くなりになった三井さんのおじいさまの料理の大事な思い出と重ね合わせながらの本の良さを伝えられました。
2. **神内圭太さん ジェームズ・ノーブリー著、せきねみつひろ訳『大きなパンダと小さなドラゴン』サンマーク出版（2023）**
著者は他の人の役に立ちたいと思い電話相談の相談員として関わろうとしていたが、新型コロナウイルス禍によりそれもできなくなり、この絵本を書いたとのこと。先を急いで生きるのがご本人は苦手とおっしゃっていたが、そういう自分に白と黒を付けたがる世の中でもパンダのように両方を併せ持った人として過ごせたらいい、と感じた本ということで紹介してくださいました。
3. **野形啓さん 芥川龍之介著、寺門孝之画『MOMOTARO』ピエ・ブックス（2005）**
日本に育った人だったらほとんどの人が知っている「桃太郎」ですが、視点、論点が違った芥川考の「桃太郎」を紹介されました。桃太郎と鬼の構図は現代の戦争の縮図ではないのか、という論点を語ってくださいました。
4. **木下琴梨さん 菅田哲也著『武士道シックステーション』文藝春秋（2007）**
自分が中学2年生のとき、部活動でスランプになった時と重なる部分があったので、紹介したいということでこの本を選ばれたそうでした。勝負事を好まない女子高生と勝負事に拘る女子高生の友人の二人が、根底では同じ悩みを抱えている、という思春期の部活動での思いが語られた発表でした。
5. **福田倫世さん 伊坂幸太郎著『フーガはユーガ』実業之日本社（2018）**
「嘘」と「省略」。事故で亡くした主人公の双子の弟と突然入れ替わった「1日」をテーマとしたドラマでした。何が嘘で何が本当なのか、を考えながら読んでもらいたい、と紹介してくださいました。

セミファイナル①の投票時はどの発表者にも多くの票が入り、接戦だったことが感じられました。集計の結果3番目に発表された野形さんが紹介した『MOMOTARO』がチャンプ本となりました。



【セミファイナル⑥】

セミファイナル前半戦（①～③）終了後、観戦する⑥の会場まで急ぎ足で5分弱かかりました。到着したときには軽く息が上がっていましたがまもなく開始するので、早速入室すると、座席が参加者で埋め尽くされ、ほぼ満席！ なんとか後ろから2列目に空いていたので、階段教室を昇ってようやく着席できました。アフターコロナとなつての初開催。①の会場もそうでしたが⑥の会場も熱気がものすごい状況でスタートしました。

司会は永野舞子さん。前回同様ブリーフィングが行われた後、開始の挨拶が永野さんからあり、発表参加者の皆さんによるくじ引きが行われました。その結果以下のような発表順になりました。

1. 昭和女子大学人間文化学部 三村紗楽さん
2. 大阪成蹊短期大学経営会計学科 村上乃音さん
3. 宮崎大学農学部 東野圭吾さん
4. 高崎商科大学短期大学部 森華莉奈さん
5. 四天王寺大学教育学部 永津隆史さん

トップバッターの三村さんを除いて、発表参加者の皆さんが着席され、三村さんが登壇。永野さんとアイコンタクトをとって、バトルがスタートしました。

1. 三村紗楽さん 伊坂幸太郎著『死神の精度』文藝春秋（2005）

6つの「死神」に関する短編集の中の表題作の紹介でした。伊坂独特の伏線回収が面白いという魅力を伝えてくださり、特に「死神の目線」という普段の生活では考えもしない点を語られていました。

2. 村上乃音さん 森絵都著『カラフル』文藝春秋（2007）

主人公の死んだ「ぼく」が、3日前に服毒自殺した中学3年生の少年「小林真」の身体を借りて現実社会に存在する「ホームステイ」をする。というファンタジー小説でした。そして生前一色にしか見えなかったものが、実はいろんな色を携えていることに気がか

されるという話でした。

3. 東野圭吾さん 星新一著『妄想銀行』新潮社（1978）

大学 3 年生になってアマチュア落語を始められた、というまさに枕からスタートし、語り口も参加者を巻き込んでいくあたりがまさに高座のようでした。そして本の紹介ではショートショート「鍵」について語られました。「鍵」は 12 ページと短い小説ですが、東野さんは中 2 の時に遭い、人生について考えさせられたそうです。

4. 森華莉奈さん 朝井リョウ『何者』新潮社（2012）

第 148 回直木賞受賞作の朝井リョウさんの『何者』の紹介でした。スタートのベルが鳴って開口一番、「SNS を見て『自意識過剰』と感ずることがありませんか？」という切り出し。それで会場にいた参加者みんなが森さんに一気に引き込まれました。「通常の自分」。「SNS 中の自分」。「就活で見せる自分」。自分なのに自分でないような言動になってしまう。それらが一体「何者」なのか。そんなことを考えさせられる発表でした。

5. 永津隆史さん 大澤武男著『ヒトラーの側近たち』筑摩書房（2011）

ナチス＝ドイツでヒトラーの側近として政策に関わった者たちについて書かれた本ということで紹介されました。実はホロコーストに加担した閣僚、官僚、軍人の中には関与したものの懐疑的な姿勢だった人間がいたのも事実で、現代の戦争下でも同じような立場の人はいるのではないか、もっと俯瞰的な見方をしないといけないのではないか、という大切な観点を話してくださいました。

5 名の発表終了後、投票となりました。この会場でも前の①の会場同様、投票が各本に割れましたが、3 番目の東野さんが紹介した『妄想銀行』がチャンプ本となりファイナル進出となりました。

私が参加した 2 つのセミファイナルとも、非常に興味をそそられる本が目白押しのバトルでしたので、きつと残りの 4 つも白熱したバトルが繰り広げられたものと思います。分身の術が使えたら全部聞きたかった。これが本音です。ちょっと後ろ髪を引かれたりもしましたが、充実したセミファイナル参加でした。



【トークセッション】

セミファイナルが全て終了し、休憩時間中に参加者の皆さんは再び開会式が開かれたグリーンホールに棟をまたいでの大移動。トークセッションとファイナルがあるので、我こそはいい席で見たいとみんな急ぎ足で移動しているのが印象的でした。

休憩後、開会式同様カモシダせぶんさんと酒井瞳さんの軽快な進行でトークセッションがスタートしました。酒井さんは今回初めてセミファイナルを観戦されたそうで、どの本が優勝してもおかしくないくらい白熱したバトルが聞けた、と興奮気味にお話しされていたのが印象的でした。今年のゲストは、角田光代さん（小説家、翻訳家）と村田諒太さん（元ボクシング世界チャンピオン・『Number』に書評コーナーを連載されているほどの読書家）というボクシング通の直木賞作家と読書家でボクシング世界チャンプのドリームペア。そんなお二人のお話が聞けると、会場は開始前からざわついていました。

角田さんは10年ぶりくらいのビブリオバトル観戦とのこと。村田さんは現役当時は試合前に本を読むことで精神を整えたり、本を読むことで自分から離れられることで自分の人生で助けられているとおっしゃっており、私も思わずうんうんとうなずいてご挨拶を聞いていました。まず「読書と私」というテーマでお話をされました。角田さんは子どもの頃は年相応の本を読んでいて、中学生で太宰治に触れ、『人間失格』で「自分のことを書いてくれている」と思い、大学時代は内田百閒と尾崎翠などの小説を読んでいたそうです。当時は今のように同世代の作家の本などない時代だったのでやむなく読まれていたそうです。また村田さんは元々本を読む子どもではなく、お父様が読書家だったので、本を渡されて「読むフリ」をするのが上手かったとのこと。私も文芸作品を避けていた子どもだったのでちょっぴりシンパシーを感じました。そんな村田さんが本に惹きつけられたのが、2012年ロンドンオリンピック代表となったとき、心を落ち着かせるために『聖書』についての解説書を手にとったのが本格的な読書の始まりで、その後もフランクルの『夜と霧』のように精神性の世界を描いた本を読むようになられたそうです。お二人とも本を通して自分の精神観との対峙をされていることを知り、自分も文芸作品を読むときは実際に自分と向き合いながら読んでいることを感じていたので思わず共感してしまい、一瞬このレポートを作成する手が止まってしまいました。（苦笑）



その後村田さんのボクシング人生と照らし合わせた進捗で進んでいったのですが、特に印象的だったのが、角田さんの『拳の先』を書くにあたり、(通われ始めた当初の理由は失恋に打ち勝つためとのことでしたが) 実際に「輪島功一スポーツジム」に通われたり、村田さんの試合観戦に自腹でマカオまで行かれたり、実際にボクサーの方たちにインタビューをされたりと精力的な取材をされて書き上げた点でした。そこまで緻密に学習することで一つのベストセラーができあがるのか、というのを知った瞬間でした。また村田さんが『拳の先』での描写はボクサーだからこそ感じる「試合を終えた先」の勝者敗者について角田さんはどのようにして描けたのか、ということばが印象的でした。

また「これから社会に出る大学生に読んでもらいたい一冊」の紹介があったのですが、村田さんはミヒヤエル・エンデの『モモ』でした。「え？なぜ読書家が多く集まるビブリオバトルで今さら『モモ』？」と一瞬思ったのですが、村田さんからのメッセージを聞いてそんなことを思った自分が恥ずかしくなりました。みんなが忙しくなってしまうと人の話を聞いてくれる人の大切さ、自分の時間を持つことの大切さを忘れないためにも再読してもらいたい、ということ伝えてくださいました。自分も時間に追われて見失っているものがたくさんあるなあ、とこのレポートを書きながら感じました。角田さんは吉田修一さんの「横道与之介シリーズ」を勧められました。社会人になるために長崎から上京した青年が、「なぜ世の中のためや他者のために生きるのか」ということを説教くさくなく描かれているようで、ぜひ読んでもらいたいとおっしゃっていました。お二人とも人生の先輩として大学生に伝えるように話されていたのが印象的でした。その後は発表参加者の方たちからの質問に対して答えられて、聞き応えのある40分間でした。



【ファイナル】

小休憩の後、トークセッション同様グリーンホールでファイナルが開催されました。進行役は引き続き、カモシダせぶんさんと酒井瞳さんとで、発表順については進行が遅れていたため、先にくじ引きを行い、以下のようになりました。そして酒井さんの紹介で順番に登壇されました。

1. セミファイナル⑥：宮崎大学農学部 東野圭吾さん
2. セミファイナル②：帝京大学教職大学院教職研究科 小林捺哉さん
3. セミファイナル④：金沢大学人間社会学域学校教育学類 野形啓さん
4. セミファイナル④：神戸大学農学部 佐久間諒さん
5. セミファイナル⑤：帝京大学文学部 高瀬皓太さん
6. セミファイナル③：大東文化大学文学部 山上出雲さん



その後ファイナルのレギュレーションの説明があり、発表参加者の方たちは降壇、そしてトップバッターの東野さんがカモシダさんから紹介され登壇し、バトルが始まりました。そして今回は偶然ですがファイナリストが全員男性でした。

1. 東野圭吾さん 星新一著『妄想銀行』新潮社（1978）より「鍵」

私が聞いたセミファイナルのチャンプでしたが、今回も小喃の枕を彷彿とさせるようなアイスブレイキングから始められました。すぐに会場の参加者は東野さんに釘付け。トークセッション、ファイナルオープニングの和やかな雰囲気から一気にビブリオバトルファイナルの空気になりました。そして「ショートショート of 神様」星新一のショートショート集『妄想銀行』から「鍵」を紹介されました。12 ページという限られたスペースで人生にとって「贅沢とは何なのか」、「楽しみとは何なのか」、「幸せなひとときとは何なのか」を描かれていることを伝えてくださいました。

2. 小林捺哉さん 西島伝法著『るん（笑）』集英社（2020）

「言葉の強さを一番感じられる小説」として『るん（笑）』を紹介されました。そして私は読者の考え方の違いで二様に感じられる構成となっている作品という点に魅力を感じました。スピリチュアルと科学が逆転した「絆の国ユートピア日本」という仮想の国を描いた3篇の短編小説集ということですが、その中で「るん（笑）」という病気を患うとスピチュアルな療法で治療する社会らしく、薬が欲しければ路地裏にいる「ヤクザ医師」から入手するという世の中。最後にこの小説を「心温まるハートフルストーリー」と捉えるか、「ことばによって科学が破壊されるディストピア作品」と捉えるかを投げかけられて、手にとってみたくなってしまいました。

3. 野形啓さん 芥川龍之介著、寺門孝之画『MOMOTARO』ピエ・ブックス（2005）

野形さんは昨年に引き続き、2年連続のファイナリスト。アイスブレーキングで「ビブリオバトル」に関する卒業論文を執筆していることを語られ最後の追い込みのなか首都決戦に出場されたようなので、きっとこの報告書が配布される頃には、「あとは卒業を待つのみ」となっていることを願いながら聞きました。本の紹介は芥川考の「桃太郎」で、鬼ヶ島の財宝を奪うやましい目的で進軍する中、犬、猿、雉に対して半分しかきびだんごを与えず、どんな結末が待っているのか。現実社会に照らし合わせると桃太郎は「善」なのか「悪」なのか。そのような「桃太郎」の見方を変えるといろんな解釈ができることを与えてくれることを紹介してくれて、今の時代もう一度芥川の「桃太郎」を再読したくなりました。

4. 佐久間諒さん 下村敦史著『同姓同名』幻冬舎（2022）

もし同姓同名の人が有名人だったら……。逆に極悪非道な人だったら……。この本は、「大山正紀」という人物が児童殺害事件を犯し、氏名以外の個人情報公開されなかったことで、全国の「大山正紀」が誤った社会制裁を受けてしまったという話でスタートし、犯人の「大山正紀」が刑期を終えて出所したという噂が流れたのを機に社会制裁を受けた「大山正紀『たち』」が「大山正紀被害者の会」を作ったところから話がはじまるのだそうです。しかしその被害者の会の中に真犯人が紛れ込んでいて色々と紛糾するのがこの小説の魅力に感じました。「大山正紀」、「大山正紀」。この5分間（最初の70秒間のアイスブレーキングでは出てこないで実質3分50秒）で25回の「大山正紀」。思わず正の字を書きながら、引き込まれていってしまいました。

5. 高瀬皓太さん 最果夕ヒ著『もぐ∞（もぐのむげんだいじょう）』河出書房新社（2022）

詩集で3万部を売る異例の詩人最果夕ヒさんが書き下ろしたエッセイ集で「食に関するトンデモな本」ということで冒頭から気になる一冊が紹介されました。開口一番パフェにとってケーキやアイス、わらび餅は構成要素でしかなく概念のレイヤーが違うなんてことを言われたので、無性にパフェが食べたくなりながら聞き入ることになりました。（実は私の最も古い記憶（なので2歳ごろだと思うのです）が祖父、父、私と3代男揃ってチョコパフェを食べたこと、というくらい、自分の中に「パフェ」が刷り込まれているのです。）また、「おいしい」ということばは「かなり理性的なことば」、という話はハッとさせられました。確かに「おいしい」ってことばを発する時はつい頭の中でワンクッシ

ョン置いてから発声しているということに気付かされました。きっとこの本を読んだら高瀬さんの言う通り「自分の胃袋を掴まれる」んだろうな、というのがひしひしと伝わってきて、話を聞きながらよだれが出まくる紹介でした。

6. 山上出雲さん 朝比奈秋著『あなたの燃える左手で』河出書房新社（2023）

出だしで突然「明日自分たちの国が占領されていたら？」という質問を投げかけられ、それを想像できる人は左手で拳手を、と言われた時、今の世界情勢が頭をよぎるとともに、なぜ左手？という思いがありながら、私は手を挙げました。（多くの方は次の「あまり想像できない」と言う方に拳手されていました）が、まさか左手も今回紹介された本の伏線となっていることには気づきませんでした。ある日主人公のポーランドで働く日本人看護師が骨肉腫で左手を失い、ポーランド人肉体労働者の左手を繋がれるが、しばらくしてその左手が拒絶をしてしまい、肉体的痛みを患ってしまう。また主人公の妻ウクライナ人で、ロシアによる侵略行為をまるで自分が犯されたかのごとく精神的な痛みを感じ、とうとう自死してしまうという夫婦それぞれ二つの痛みが絡み合っって話が展開していくことを紹介してくれました。私は山上さんの話を聞いて、現在世界で行われている戦争で領土や家族を失ったり離れ離れにならざるを得ない辛さ、悲しさ、無情さを感じずにはられませんでした。

6名とも熱くいずれも読んでみたくなるような発表でした。そして酒井さんの説明の上、軍配による投票となりました。私も投票しましたが、セミファイナル同様の本も魅力的でどれに手を挙げるか正直迷いました。それは他の人もそうだったのか、会場での軍配の数は接戦のように見えました。そして集計のため一旦小休憩が入りました。

【表彰式・閉会式】

小休止後、表彰式・閉会式が始まりました。カモシダさん曰く「例年以上に票が割れた」とのことで、やはり接戦だったようでした。そして村田さんが「ゲスト特別賞」の、角田さんが「準グランドチャンプ本」の、谷口さんが「グランドチャンプ本」のプレゼンターを務められました。

各賞を受賞された方は以下の通りです。

◆ゲスト特別賞

大東文化大学 文学部 山上出雲さん 朝比奈秋著『あなたの燃える左手で』

◆準グランドチャンプ本

帝京大学 教職大学院 教職研究科 小林捺哉さん 西島伝法著『るん（笑）』

◆グランドチャンプ本

神戸大学 農学部 佐久間諒さん 下村敦史著『同姓同名』

そして、表彰式で一番笑わせてもらったのが……、佐久間さんが優勝スピーチの原稿をズボンの右ポケットからおもむろに出してそれを持って語り出されたこと。カモシダさんからのツッコミがいい合いの手となって、会場は爆笑に。その後もクスクス笑う人たちが絶えない楽しい優勝スピーチでした。

最後に角田さん、村田さん、谷口さんからのスピーチがありました。特に村田さんの「賞を取ることが目的ではなく、これからにつなげる過程として今日がある」ということばが印象に残りました。本当に予選会から考えると数百人の大学生のみなさんが「人に読んでもらいたい本」を5分間で伝えることが、自分のメッセージとなり、そのメッセージを考えるために好きな本を何回も読み返して、本を媒介に自分と向き合ったり、社会のことを考えたりする。そのようなプロセスが自分の成長を促すものでもあるので、ビブリオバトルは人生の「過程」としての役割を担っているんだな、と気づかせてもらう機会となりました。そして会場が温かい空気に包まれるなか無事終了しました。そしてグリーンホールを後にしました。外はすっかり日が落ちていましたが、素敵なクリスマスツリーを見ながら、帰途に就きました。

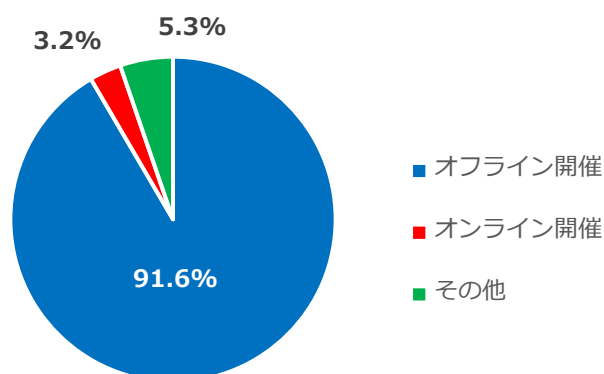


最後になりますが、カモシダさん、酒井さん、角田さん、村田さん、谷口さん、昭和女子大学の学生さんはじめ教職員の皆さん、活字文化推進会議、ビブリオバトル協会、ビブリオバトル普及委員会各スタッフの皆さん、そして何よりも興味を惹く本を紹介して下さった発表参加者とそれを楽しく聞いて一緒に場を作られた参加者の皆さん。みんなワクワクする時間を紡いでくださってありがとうございました。また来年参加したいと思います。

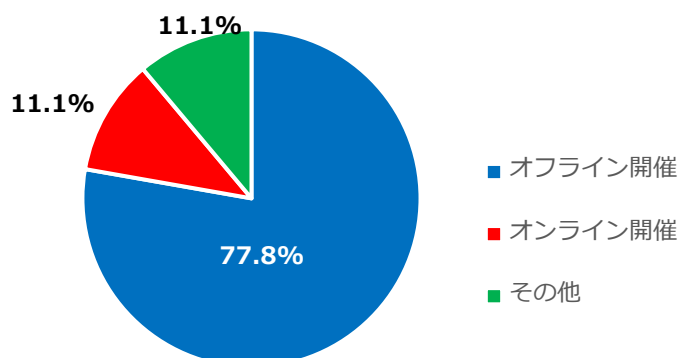
5 その他

5-1 予選会開催方法

◆ブロック予選 (95回) *その他は、ハイブリッド形式など

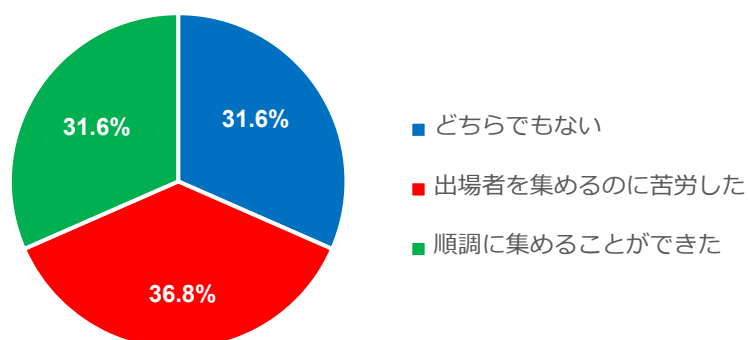


◆ブロック予選 (95回) *その他は、ハイブリッド形式など

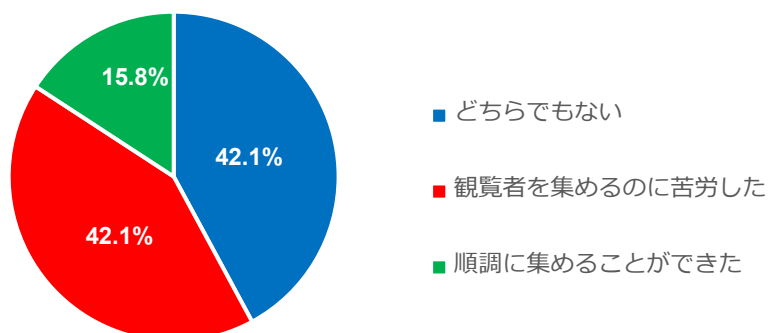


5-2 予選団体アンケート結果

◆出場者（発表参加者）は順調に集められたか？ (19件回答)



◆観覧者は順調に集められたか？ (19件回答)



5-3 セミファイナルの実施方法

セミファイナルにおいて、発表者が発表本を聴衆に提示するタイミングについて、現地スタッフ間で十分な認識の共有がなされていなかったことが明らかになった。次年度以降は、紹介本を提示するタイミングは発表者の判断に任されていることを事前にスタッフに周知することを確認した。

ビブリオバトルにおいてはライブ感が重要であることから、司会に大きな裁量を与えてルールの範囲内で柔軟な進行を行っている。そのため、今後も予期しない事態が発生する可能性がある。参加者に、司会の判断および運営が尊重されるということを事前に周知する必要があることも併せて確認した。

5-4 ブロック予選・ブロック決戦主催団体 広報ウェブサイト

ブロック予選・ブロック決戦主催団体の広報ウェブサイト、チラシ等は全国大学ビブリオバトル2023公式ウェブサイト記録ページ(<https://zenkoku.bibliobattle.jp/records2023>)にて公開している。

6 記録

6-1 ちらし・ポスター素材

第14回 全国大学
ビブリオバトル
2023

会場: 昭和女子大学
(東京都世田谷区)

三田山園園
生協部
ハトハ屋
ジキキ

村田大輔
角田光代

首都決戦
12月17日(日)
正午開会
観覧者募集
入場無料

募集定員 500人
締切日: 12月6日(水)
※詳しくは表紙を
ご覧ください。

【お問い合わせ】 活字文化推進会議事務局 ☎03-3217-4302(平日9:10時~17:4時)

主催: 活字文化推進会議 共催: ビブリオバトル普及委員会、ビブリオバトル協会 特別協力: 昭和女子大学 協力: 松竹芸能
主管: 読売新聞社 後援: 文字・活字文化推進機構、日本書籍出版協会、日本書店商業組合連合会、大日本印刷、文部科学省

イラスト: 藤原優希

6-2 メディア掲載 (一部)

11 特別編 12版 2024年(令和6年)1月22日(月曜日) 読売新聞

全国大学ビブリオバトル~首都決戦~

トークセッションでは、2人のゲストの読書が話題され、会場も大いに盛り上がった



角田光代さんオススメ
『横道世之介』(吉田修一著)
『モモ』(ミヤケルエン著)

村田諱太さんオススメ
『モモ』(ミヤケルエン著)

全国大学ビブリオバトル~首都決戦~

大卒生の「唯一の日本一」を決める書評大会「全国大学ビブリオバトル」が昨年11月10日、東京理科大学の和女子大学で開かれた。30人が参加し、観客約400人の熱気の中、神戸大学3年の佐久間諱太が優勝した。同日、読者の投票で、佐久間諱太の『固唾のむ 緩急つけた話術』が、全国で最も読まれた『モモ』に次いで、2位の成績を挙げた。

神戸大学文学部3年 佐久間諱太さん21

毎週人物を題材に、友人と語り合う『モモ』の作者、角田光代さんの『固唾のむ 緩急つけた話術』が、あえて読者の目線から見て、『モモ』と対峙する。『固唾のむ 緩急つけた話術』は、角田光代さんの『モモ』と対峙する。『固唾のむ 緩急つけた話術』は、角田光代さんの『モモ』と対峙する。

「固唾のむ 緩急つけた話術」は、角田光代さんの『モモ』と対峙する。『固唾のむ 緩急つけた話術』は、角田光代さんの『モモ』と対峙する。

あなたの燃える左手で
朝比奈秋彦、河出書房新社

大東文化大 文学部4年 山上出雲さん22

観客の共感味わえた

『あなたの燃える左手で』は、朝比奈秋彦の代表作。『あなたの燃える左手で』は、朝比奈秋彦の代表作。

準グランチャン本 るん(笑) 西島伝法著、集英社

帝京大大学院 教職研究科2年 小林捺哉さん23

複雑な世界観を訴え

『るん(笑)』は、西島伝法の代表作。『るん(笑)』は、西島伝法の代表作。

【主催】 読字文化推進協議会
【共催】 ビブリオバトル普及委員会、ビブリオバトル協会
【主催】 読字文化推進協議会
【特別協力】 昭和女子大学、【協力】 松竹画廊
【後援】 文部科学省、文学、読字文化推進協議会、大日本印刷、日本書籍出版協会、日本書道連盟、日本書道協会

一般社団法人ビブリオバトル協会のご案内

ビブリオバトルは「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチフレーズとしたゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの書評合戦です。全国の小中学校、高等学校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒など様々な場所で開催されており、その楽しさが広く共有されています。ビブリオバトル普及委員会は、ビブリオバトルの普及を通して、世の中のコミュニケーションや知識共有、人々のつながりを活性化させることを目的とする団体です。ビブリオバトル普及委員会は法人格を持たない有志の集まりですので、それを裏から支え、運営業務を受け持つ法人が一般社団法人ビブリオバトル協会となります。

連絡先

メールアドレス：info@bibliobattle.jp

公式ウェブサイト：<https://association.bibliobattle.jp/home>

役員

(理事・代表理事)	谷口 忠大
(理事・副代表理事)	須藤秀紹
(理事)	岡野 裕行
(理事)	小林秀高
(理事)	坂本牧葉
(監事)	大川 真司

サポーター会員募集

私たちは、「ビブリオバトルの普及を通して、世の中のコミュニケーションや知識共有、人々のつながりを活性化させること」を目的とし活動しています。この私たちの活動の趣旨にご賛同くださり、サポーターとしてご支援いただける団体・企業の皆さまを募集しています。

サポーター会員募集のご案内：<https://www.bibliobattle.jp/supporter>

2023 年度サポーター会員様（敬省略）

- ・株式会社図書館流通センター
- ・株式会社ブックエース
- ・さ・え・ら書房
- ・東京創元社
- ・子どもの未来社
- ・デーリー東北新聞社
- ・あんとれボックス
- ・国立大学法人筑波大学 情報学群知識情報・図書館学類
- ・アルペ記述読解教室

ビブリオバトル普及委員会のご案内

ビブリオバトル普及委員会は、知的書評合戦ビブリオバトルをより広く普及させることを目的として活動する任意団体です。主催や参加、見学、取材のご相談などは、お気軽に下記までご一報ください。

連絡先

メールアドレス：info@bibliobattle.jp

公式ウェブサイト：<http://www.bibliobattle.jp/>

役員

(理事・代表)	須藤秀紹 (近畿大学情報学部)
(理事・副代表)	小林秀高 (拓殖大学北海道短期大学農学ビジネス学科)
(理事・副代表)	坂本牧葉 (北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科)
(理事)	飯島玲生 (名古屋大学)
(理事)	佐々木奈三江 (徳島大学附属図書館)
(理事)	益井博史 (一般社団法人ビブリオバトル協会)
(理事)	佐藤慧 (ビブリオバトル普及委員会普及委員)
(理事)	榎村真由 (ビブリオバトル普及委員会普及委員)
(理事)	永野舞子 (ビブリオバトル普及委員会普及委員)
(理事)	宮本皐 (ビブリオバトル普及委員会普及委員)
(監査役)	大川真司 (大川公認会計士・税理士事務所)

地区代表

地区名	地区代表者、副代表者名
北海道	小林 秀高 (副) 永野 舞子
東北	貝森 義仁 (副) 加藤 啓太
関東	瀬部 貴行 (副) 市川 紀子
北陸	藤野 秀則 (副) 本吉 達郎、(副) 鎌田 康裕
中部内陸	荒戸 寛樹
東海	飯島 玲生 (副) 岡野 裕行
関西・中国	益井 博史 (副) 水野 五郎
四国	西村 浩子 (副) 佐々木 奈三江
九州	佐藤 慧 (副) 林 鉄郎

会員：520名 (2024年1月31日現在)

新規会員の募集について

ビブリオバトル普及委員会は、ビブリオバトルの普及を通して、世の中のコミュニケーションや知識共有、人々のつながりを活性化させることを目的としボランティアで活動しています。入会を希望される方は、入会申請フォームをご確認の上、お申込みください。

入会申請フォーム：<https://www.bibliobattle.jp/aboutus/admission>

関連書籍の紹介

<新刊発売>

『ビブリオバトル ガイドブック ルール改訂版』

編著：ビブリオバトル普及委員会
 出版社：子どもの未来社
 出版年月：2023年9月



【内容】

様々な場所やオンライン・SNSでも楽しめる「Bibliobattle of the Year」を受賞した個人や団体のユニークな取り組みを紹介。ルール改訂を踏まえてビブリオバトルの魅力を見ることができる1冊。

2009年に紹介されて14年が経ち、今では多くの人たちが本のコミュニケーションゲームとしてビブリオバトルを楽しんでいます。

さらに様々な場面で、またビブリオバトルをもっといろいろな活用したいと考えている方にお薦めのガイドブックができました。個性的で楽しくてワクワクする事例が満載です。SNSでの開催例も載っていますよ。

(子どもの未来社サイトより)

『コミュニケーション場のメカニズムデザイン』

著者：
 谷口 忠大、石川 竜一郎(編著)
 中川 智皓、蓮 行、井之上 直也、末長 英里子、
 益井 博史(執筆者)
 出版社：慶應義塾大学出版会
 出版年月：2021年10月



【内容】

▼ビブリオバトル、ディベート、演劇ワークショップ、発話権取引の実践から「コミュニケーション場」のメカニズムを解明する。

▼ビジネスの「会議」、教育の場の「議論」などの「質」と「量」を改善する！

▼「コミュニケーション」についての新たな総合的アプローチの提案。

一部の人が話す会議、かみ合わない議論…。

誰もが経験する、コミュニケーションの「失敗」に対し、「場」の「メカニズム」に注目し、実践と理論の両方から検討する。ビブリオバトル、ディベート、演劇ワークショップ、発話権取引についての分析と、メカニズムデザイン理論、自然言語処理の知見を加わる。

(慶應義塾大学出版会サイトより)